

冬の寒さに負けない 野球少年たちの情熱

12
17

晴海臨海公園球技場

時折冬の冷たい風が吹く中で行われたドリーム野球教室。市内外から少年野球4チームが参加、110人の小中学生が元広島東洋カープ選手人から指導を受けた。

大野豊さんからピッチングの指導を受けた大竹バッファローの山田龍之介くん(大竹小6年)は「踏み込む足がインステップになりがちな点を指摘され、真直ぐ足を出すように変えたら、とても投げやすくなりコントロールもよくなりました。参加してよかったです」と上手くなった喜びを話してくれた。

また野球指導の後には、RCCの一柳アナウンサーの司会のもと、野球少年たちの悩みや質問に、カープのOB選手たちがアドバイスをするトークショーが行われた。

試合で緊張するという悩みに「緊張とあがっているのは違う。緊張しているのは集中しているということ。緊張を好きになれ」とアドバイス。
一柳アナウンサー・長内孝さん・大野豊さん・木下富雄さん・渡邊弘基さん



「バットは軽く持って、ひじから先を柔らかくすれば、ヘッドスピードが速くなる」とバッティング指導する長内さん。

大野さんからピッチングの指導。



成人のつどい実行委員長の佐古大典さんは「生に1度しかない記念の日をみんなで作り上げたので、とても充実しました。これからの社会生活において、協力する大切さを学べたと思います。来年の実行委員の人たちも悔いの残らない式典を作り上げて欲しいです」と話してくれた。

心新たに

新成人の門出

アゼリアホール
エスポワールおたけ

あいにくの雨模様であったが、新成人170人が参加し、華やかな雰囲気で行われた成人のつどい。

二十歳の誓いでは、木村圭太さんと稲田碧さんが「しっかりと大人になったという自覚を持ち、それぞれの目標に向かってがんばっていきたい」と決意した。式典と交流会の企画・進行は新成人が行った。

華やかな衣装と飾りを身にまとった新成人。

1
8

(右)二十歳の誓いを読み上げる、木村さんと稲田さん。

(下)成人の思い出に友達と一緒に記念撮影「ハイチーズ」。



安心安全を守る 消防団員の勇姿

晴海臨海公園

時折、雪が舞う寒い中で開催された出初式に市消防や消防団、企業自衛消防隊の計269人が参加。威風堂々とした行進や広島市航空消防隊と連携した一斉放水訓練などが披露された。

また会場では、消防ヘリコプター・消防自動車の展示や消防車・救急車の走行乗車体験も行っていた。救急車に乗車した双子の姉妹の元永千尋ちゃんと麻尋ちゃん（6歳小方）は「毎年見に来ていますが、消防車には乗ったことがなかったので、今日は救急車に乗ることができて、とても楽しかったです」と笑顔で話してくれた。

1
13



(上)広島市消防と市消防、消防団、企業自衛消防隊が、空と陸で連携して一斉放水訓練を行った。

(下)救急車に乗って笑顔でピースする元永千尋ちゃん(写真右)と麻尋ちゃん(写真左)。



市民団体や大竹高校の生徒会がボランティアで豚汁うどんや焼き鳥を会場で振る舞った。



真剣なまなざしで、行進する消防団員たち。

冬の大竹路を駆ける

総合市民会館
(スタート・ゴール)

今年で67回目の開催となった大竹の伝統行事「大竹駅伝競走大会」。

市内外から105チームが参加し、スタートの号砲と同時に選手たちは、大竹路へと飛び出していった。全力で走る選手に沿道からたくさんの声援が送られた。

中学女子の部で2位入賞した小方中学校。部長の伊勢岡悠さん(2年)は、「みんなで、日頃の練習の成果を出し、ベストを尽くせたので、良かったです。これまで、区間2位が最高でしたが、初の区間賞もとれて良かったです」と笑顔で話してくれた。

1
14



スタートの号砲で、一斉に飛び出した。

中学校女子の部で
2位となった小方中学校。



(右上)勢いよくゴールテープを切る。

(右)仲間からのたすきを待つ。



3千個の中で形の合ったひなの頭2つがセットになって流しびなになる。



子ども達の喜ぶ姿を
思い浮かべながら心を
込めて一つひとつ丸めていく。

大竹市伝統の恒例行事「ひな流し」に向けて、青少年育成市民会議のメンバーが、約3千個のひなの頭を子ども達の幸せを願いながら一つひとつ丁寧に作成した。

青少年育成会議副会長の泉須美子さんは「ひな流しに使う一対のひな人形は子ども達には、かけがえないものなので、一つひとつ心を込めて作っていきます」と話してくれた。

子ども達の
幸せを
願って

大瀧神社子会館

1
16